

Ⅲ章 駅前複合施設基本構想(素案)

1 公共施設再編に向けた現施設の機能の整理

I章における「5. 駅・ラディアン周辺公共施設再編の考え方」に基づき、駅前地区の公共施設の機能の整理を行います。

1) 町民センター機能の整理

町民センターは、老人クラブ室1、クラブ室8、調理実習室1、大ホール1で構成され、「町民活動サポートセンター」、「観光協会」と「ともしびショップ」が併設されています。2階のクラブ室は稼働率30%を超えていますが、3階のクラブ室は稼働率30%を割っています。また、調理室は3.7%、大ホールは4.5%と稼働率が非常に低い部屋があります。

部屋の名称、広さ、机や椅子等の設備の数、稼働率

階	室名（旧室名）	種別	面積(m ²)	収容設備	稼働率(H27)(%)
1階	老人クラブ室	和室	126	42畳+12.5畳 座卓95 座布団150	29.2
2階	2Aクラブ室	会議室	90	机40 椅子70	37.0
2階	2Bクラブ室	会議室	53	机30 椅子50	39.6
2階	2Cクラブ室	和室	90	24.5畳+14畳 座卓45 座布団85	35.9
2階	2Dクラブ室	和室	45	14畳+6畳 座卓18 座布団40	22.9
2階	調理実習室		95	使用人数 50人	3.7
3階	3Aクラブ室	会議室	45	机30 椅子50	28.4
3階	3Bクラブ室	会議室	90	机30 椅子45	24.5
3階	3Cクラブ室	会議室	70		10.1
3階	3Dクラブ室	会議室	58		10.9
3階	大ホール		190	収容人数 210人	4.5
1階	授乳室			長椅子（ソファ）など	

※稼働率は平成27年度

以上の状況を踏まえて、稼働率の高い機能は（仮称）駅前複合施設に整備します。また、稼働率の低い機能は縮減、ラディアンへの集約、新庁舎等による機能の代替を行います。

各機能の整備の方向性を次ページの表に整理します。

※ 稼働率は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、施設の閉鎖や稼働率の低下が極端な状況となっているため、平成27年度のデータを採用しています。

機能	種別	面積(㎡)	整備の方向
老人クラブ室	和室	126	和室として同規模で駅前複合施設に整備します。
2A クラブ室	会議室	90	同規模で駅前複合施設に整備します。
2B クラブ室	会議室	53	同規模で駅前複合施設に整備します。
2C クラブ室	和室	90	同規模で会議室として駅前複合施設に整備します。
2D クラブ室	会議室	45	同規模で駅前複合施設に整備します。
調理実習室		95	ラディアンで代替します。
3A クラブ室	会議室	45	ラディアンや新庁舎の会議室等で代替します。
3B クラブ室	会議室	90	
3C クラブ室	会議室	70	
3D クラブ室	会議室	58	
大ホール		190	ラディアンホールや新庁舎の議場で代替します。
観光協会			観光客に対するサービス機能として駅前複合施設に整備します。
ともしび ショップ			新庁舎またはその周辺に整備します。
町民活動サポ ートセンター			新庁舎またはラディアンに整備します。

2) 武道館機能の整理

武道館は、柔道場と剣道場で構成され、年間利用団体数は、約 900～1,100 団体で推移しています（平成 23～27 年度）。稼働率は、45.5%（柔道場と剣道場の平成 27 年度平均）で、現施設は、体育室床面積 397.5 ㎡（＝30m×13.25m 柔道および剣道のフローリング床部分）となっています。

稼働率をさらに高めるために、正式な大会が可能な規模として駅前複合施設に整備することを検討します。各機能の正式な基準を以下に示します。

機能	正式な基準
柔道場	コート外寸 14.56m×14.56m
剣道場	コート外寸 11m×11mにその外周 1.5mを確保

3) 二宮小学校体育館機能の整理

現二宮小学校体育館の施設概要は下記の通りです。

II章で整理したとおり、現二宮小学校体育館は災害時に周辺地域の避難所や、選挙時の開票所になっています。将来的に小中学校の統廃合が生じたとしても、避難所機能は駅前地区に必要と考えております。

機能	整備の方向
アリーナ床面積（壁芯）	625㎡（=21m×29.8m）（ステージを含まない）
バスケットボール	2面 19m×10m
バレーボール	2面 17.4m×9m
バドミントン	2面 13.4m×6.1m
バレーボール（9人制）	1面 20m×10m

出典：二宮小学校体育館アリーナ、コート（新築設計図より）

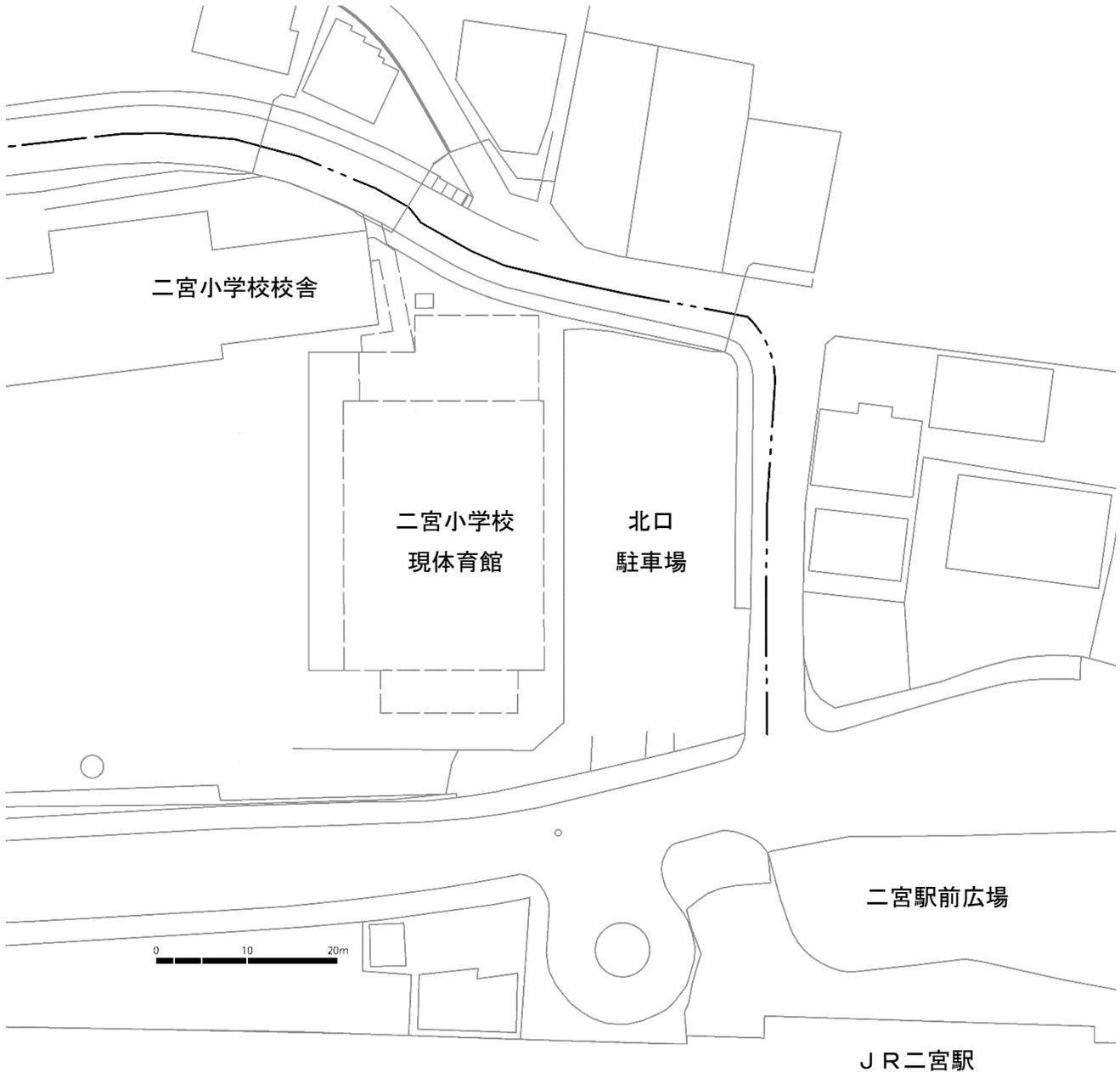
各機能の標準の整備水準を以下に示します。

機能		整備の方向
バスケットボール	メインコート	28m×15m 日本バスケットボール協会主催大会用のコート規格（サイドライン・エンドラインの周囲2m、コート上高さ7mの範囲は障害物なし）
	サブコート	23m×15m
バレーボールメインコート		18m×9m 6人制コート規格および女子の中学・高校・一般用の9人制コート規格、サイドラインから5m以上、エンドラインから8m以上のスペースが必要 コート上高さ7mの範囲は障害物なし
バレーボールサブコート		18m×9m 9人制の男子中学のコート規格（男子高校・一般は21m×10.5m、男女小学は16m×8m）
バドミントン		13.4m×6.1m バドミントンのコート規格、サイドライン・エンドラインより2m以上、高さは12m以上、障害物なし
（参考）フットサルのコート		長方形で、長さ25m以上42m以下、幅18m以上25m以下

2 整備対象地および計画与件の整理

1) 整備対象地

整備対象地は、下図に示す現二宮小学校体育館部分と駅北口駐車場用地を含めた約 1,900 m²（小学校部分 1,095 m²、北口駐車場 815 m²）を予定しています。



2) 計画与件

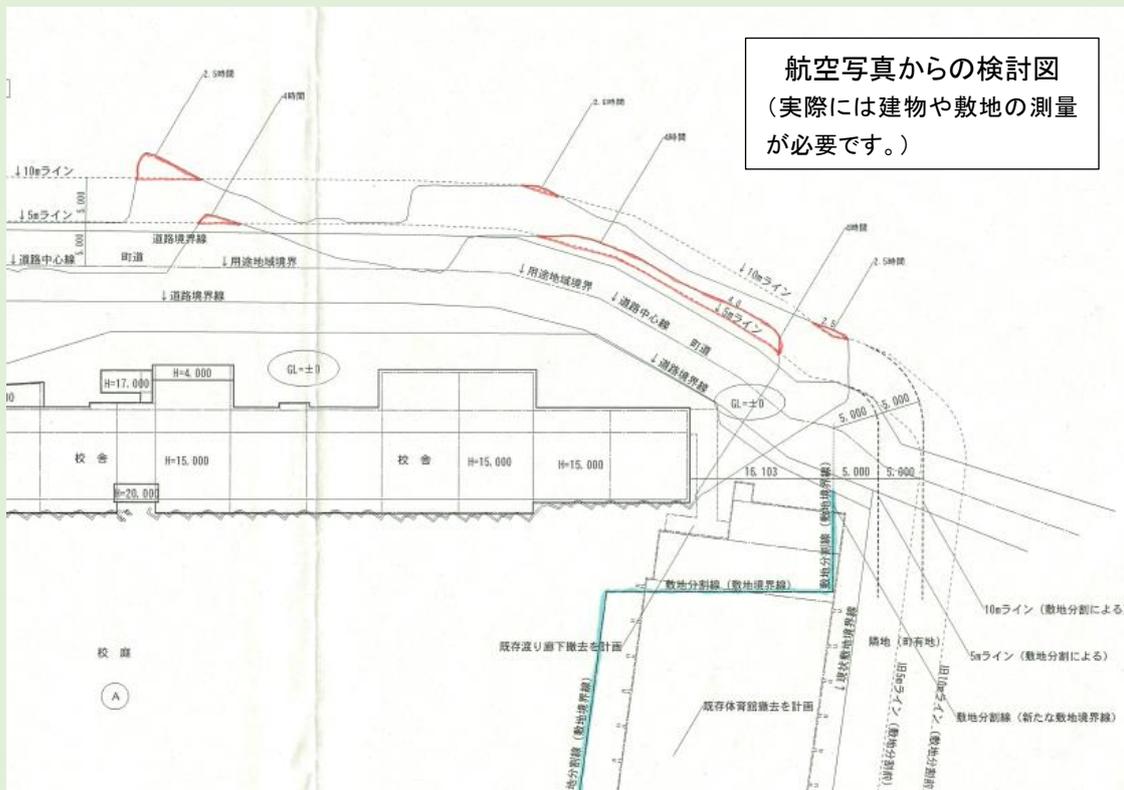
対象地区の都市計画条件を以下に整理します。

項目		規制内容等
用途地域		近隣商業地域
防火地域・準防火地域		準防火地域
容積率／建ぺい率		200％／80％（第四種風致地区の建ぺい率 40％）
第三種高度地区		最高高さ 20m（第四種風致地区の最高高さ 15m）
日影規制		5時間（10mを超える区域）－3時間（5mを超える区域） 北側の第一種中高層住居専用地域は、4時間－2.5時間 測定面はいずれも 4m
第四種風致地区	緑地率	敷地面積の 20％以上
	壁面後退距離	道路側 1.5m以上 道路以外 1.0m以上

※二宮小学校について

現二宮小学校の校舎は、敷地北側の用途地域が第一種中高層住居専用地域に指定される前に建設されているため、現校舎の日影ラインの一部が既存不適格となっています。このため、建築確認申請が必要となる増改築については、校舎そのものの日影が北側の「第一種中高層住居専用地域」に対して適合する必要が生じます。

本基本構想（素案）において、駅前複合施設の敷地については、小学校の敷地設定から切り離して単独で日影規制の対象として計画します。（※考え方のみで、実際は区分けされません）



3 駅前複合施設基本構想（素案）

前項の整理を基に、駅前複合施設の整備内容を以下の通り設定します。

1) 基本的な考え方

駅前地区に広域避難所機能を残す必要があります。また、複合施設となることで、乳幼児や障がい者の方の避難や帰宅困難者の受け入れ等、多様なニーズに対応できる避難所とすることができます。

現在と同様に選挙の開票所としても活用することも想定され、二宮小学校体育館と武道館、町民センター機能の一部を合わせた複合施設として整備することで相互作用を発揮し、機能を向上します。

2) 整備イメージ

秦野市立西公民館・西中学校体育館【秦野市】の事例

秦野市立西中学校の体育館と武道場、秦野市立西公民館の複合化を図ることにより、公共施設の集約及び共用化による、コミュニティ拠点の形成を目指した事業です。



3) 施設構成

① 主要な諸室

前項までの検討結果を踏まえて、以下に整理します。

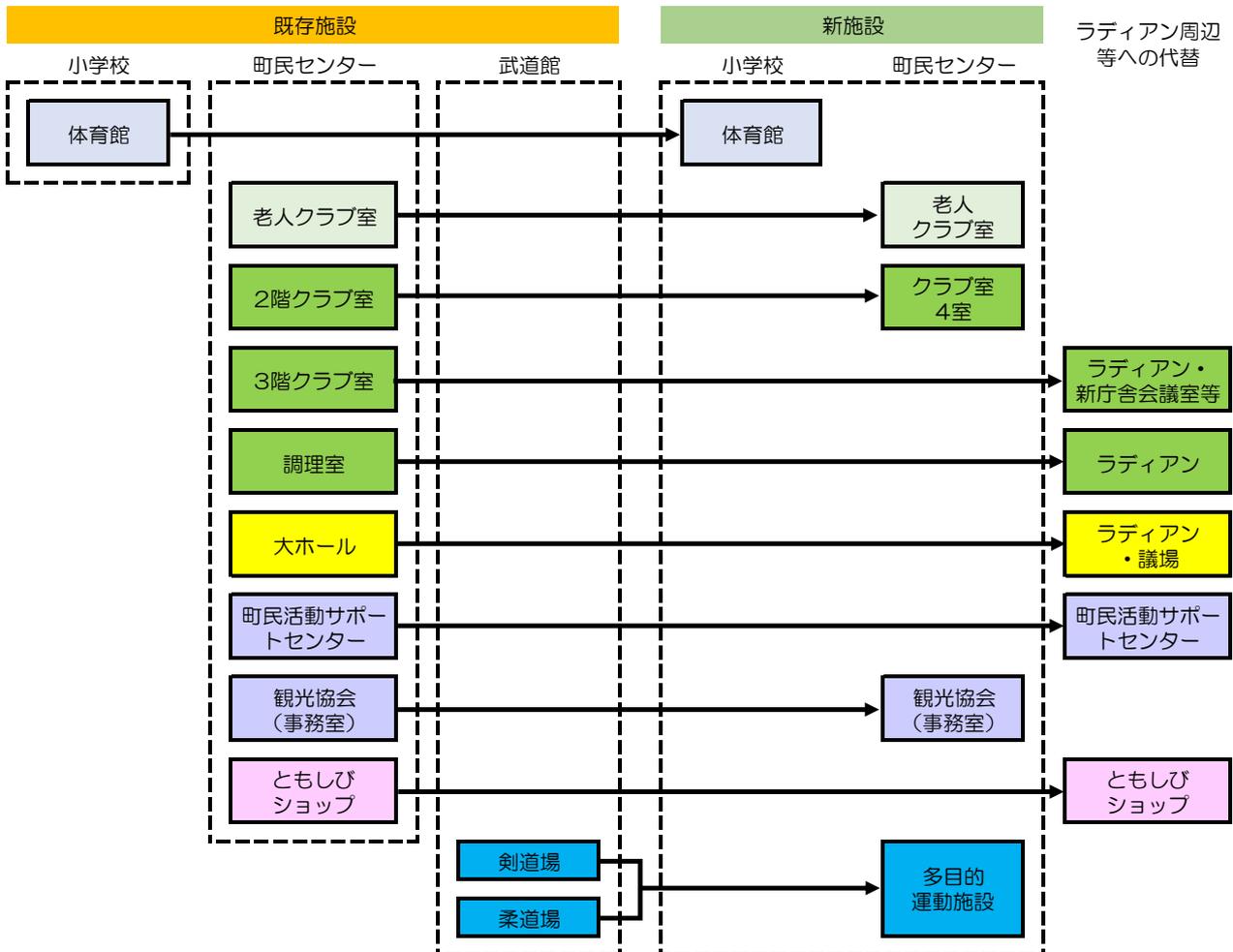
機能	整備の方向		
町民センター	老人クラブ室	和室	120㎡程度
	クラブ室	会議室	90㎡程度
	クラブ室	会議室	50㎡程度
	クラブ室	和室	90㎡程度
	クラブ室	会議室	50㎡程度
多目的体育施設 (武道場)	柔道場	正式なコート外寸 14.56m×14.56mと、その外周に必要なスペースを確保します。	
	剣道場	正式なコート外寸 11m×11mにその外周 1.5mを確保した上で、さらにその外周に必要なスペースを確保します。	
二宮小学校体育館	アリーナ	25m×32m=800㎡	
	ステージ	25m×6.5m=162.5㎡	
観光協会	観光協会事務室と観光案内カウンター、物産販売コーナーなど一部の行政サービス（出張所）機能		

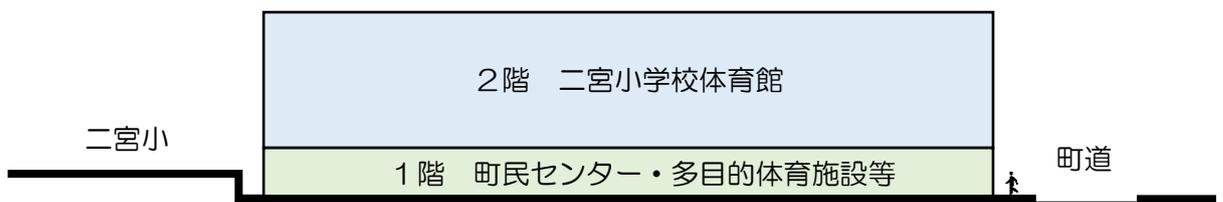
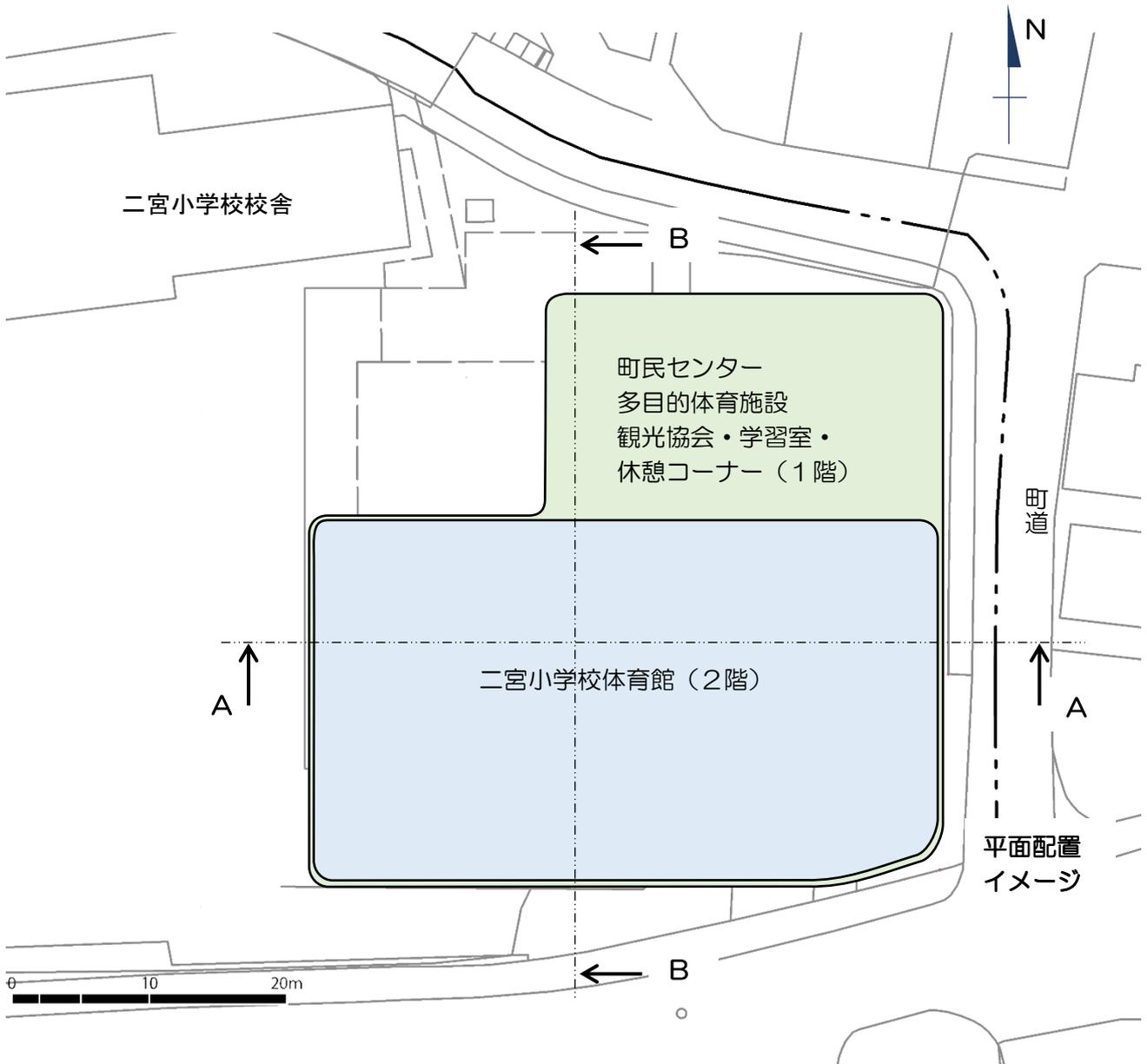
② その他の機能

上記の機能を支える機能として以下の機能の整備を検討します。

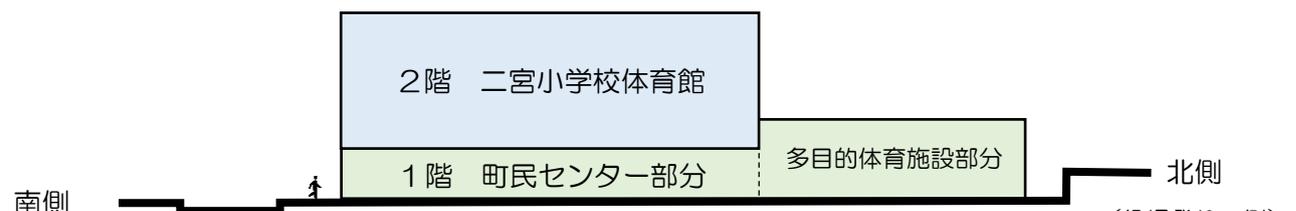
機能	整備の方向
事務室（観光協会事務室）	施設の事務室と観光協会事務室を兼ねます。また、観光客に対するインフォメーション機能を果たします。
トイレ・バリアフリートイレ	
更衣室・シャワー室・ロッカールーム	体育館や多目的体育施設の利用者に対する機能として整備を検討します。
倉庫（体育倉庫その他）	体育館の備品、テーブルや椅子などを収納します。
給湯室	会議室等の利用者に対する機能として整備します。
学習室・休憩コーナー（ラウンジ）	中高生等の自習や町民の気軽なコミュニケーション形成の場として、また、吾妻山等への観光客の休憩スペースとして整備します。
ホール、廊下、階段、エレベータ	施設の動線部分として整備します。ホールは上記、学習室・休憩コーナーと一体的に整備します。
駐輪場・駐車場	現庁舎の跡地を想定しています。

■施設移行イメージ





A-A断面（イメージ）



B-B断面（イメージ）

6) 事業費のイメージ

本基本構想（素案）における建物が、体育館と集会施設の複合施設であり、事業費を算出するためには設計を実施し、算出することが必要となります。現構想（素案）の時点では内容・面積等が不確定な点も多いため算出することができません。

複合施設の事例は少ない状況にありますが、公表されているものとして秦野市立西公民館・中学校体育館複合施設を以下に示します。また、機能は異なりますが類似の複合施設の事業費についても別に整理しました。いずれも、造成費や外構工事費、什器・備品費などの詳細については不明です。

施設名称	床面積	工事費（㎡単価）	適用
秦野市立西公民館・西中学校体育館複合施設【秦野市】	3,473.41 ㎡	35 万円/㎡	

施設名称	床面積	工事費（㎡単価）	適用
神奈川総合産業高等学校体育館【相模原市】	3,030 ㎡	20 万円/㎡	平成 19 年
新発田駅前複合施設（イクネスしばた）【新潟県】	6,040 ㎡	49 万円/㎡	平成 25 年基本設計前
邑楽町中央公民館【群馬県】	2,520.65 ㎡	37 万円/㎡	平成 30 年
多賀町中央公民館【滋賀県】	2,611.84 ㎡	28 万円/㎡	平成 30 年

※ 参考値のため、この㎡単価と床面積をかけることで、想定事業費とすることはできません。